

1 自己評価及び第三者評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2890800267		
法人名	社会福祉法人 絆福祉会		
事業所名	グループホーム ふるさと桜		
所在地	兵庫県神戸市垂水区塩屋町6丁目38-15		
自己評価作成日	平成29年6月25日	評価結果市町村受理日	平成29年10月16日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	認定NPO法人 コミュニティ・サポートセンター神戸(CS神戸)		
所在地	神戸市東灘区住吉東町5-2-2 ビュータワー住吉館104		
訪問調査日	平成29年7月13日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

法人の理念である「みつめあう目と目、つなぎ合う手と手、ふれあう心と心、人と人との絆を大切に」をもとに、職員一同、入居者様の支援をさせて頂いています。今年度は職員の言葉遣いに力を入れ、入居者様はもちろんご家族様が安心して、気も落ち良くホームをご利用して頂けるよう取り組んでいます。また、地域貢献の一環として、職員と入居者様で地域の清掃活動に取り組んでいます。入居者様の生活の質を上げることはもちろん、地域の社会資源の一つとして、入居者様と一緒に地域貢献が少しでもできるよう取り組んでいます。

【第三者評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

地域で存在感のある福祉法人が多角的に営む高齢者介護事業の一環事業所であり、基本方針を「住み慣れた町で、その人らしく、慈愛に満ちた生活を支援する」とする新年度事業計画を策定し、6項目の年間目標及びその実践計画を推進している。昨年の目標達成計画で取り上げた課題に取り組み、①職員が基本方針を共有し入居者、家族及び地域住民に対する姿勢を統一するためにその主たる内容をスローガンに掲げ、②入居者に日々の生活の中で適切な役割を分担してもらい、その実行により生きがいを感じてもらう、③入居者と職員とが一緒に食事をする機会を持って一層家庭的な雰囲気の中で食事を楽しめるようにする、ことなどを実施している。4月から新たに入居者と職員とが一緒に毎週月曜日に事業所周辺の清掃活動を行っている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および第三者評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	者三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念である「みつめあう目と目、つなぎ合う手と手、ふれあう心と心、人と人との絆を大切に」をもとに、入居者様が地域との関わりを持ち、グループホームでの生活を送ることが出来るように、地域行事や清掃活動、買い物などへの参加を支援しています。	法人理念と事業所基本方針を共有し、年間事業計画を遂行するため「入居者への支援」と「チームワーク」の強化が必要との結論を得た。7月から会議で定めた「やさしい気持ちとふるさとすまいる」のスローガンを各ユニットの入り口に掲示し意識を向上させている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域行事や清掃活動、買い物などへの参加を支援しています。また、地域で活動されているボランティアに協力して頂き、ホーム内での活動をしていただいている。運営推進会議を2か月ごとに開催し、地域の代表の方の参加もいただいている。	複数の近隣ボランティアの訪問を受けている。入居者は地域福祉センターのイベントに足を運ぶ。事業所は小学校で行われる地域の夏祭りに毎年参加している。4月から、一部の男性入居者と職員とが一緒に毎週月曜日に地域の清掃活動を行っている。	4月から開始した、毎週月曜日に入居者と職員とが一緒に行う事業所周辺の清掃活動への取り組みの継続及び地域住民等への波及的な効果を期待します。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域ケア会議や運営推進会議において認知症ケアの取り組み内容を報告させていただいている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月ごとに開催しており、運営状況や入居者様の生活状況、地域貢献の報告をするとともに、事故の対策や支援の内容のご意見をいただいた場合は支援の内容に活かすようにしている。	入居者、家族代表、地域住民代表、地域包括支援センター職員、地域密着型の知見者等をメンバーに、2か月に1回開催している。事業所から運営、入居者の生活状況等が報告され、メンバーとの意見交換、地域情報も提供される。議事録は入居者家族に配布する。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域ケア会議や運営推進会議において区の担当者やあんしんすこやかセンターの職員と情報交換を行っている。また、垂水区医療介護サポートセンターの委員会へ管理者が参加している。	事業所での事故や困難事例が発生した際には、適正に報告又は問い合わせを行い必要な指示を受けている。垂水地区の地域ケア会議や医療介護サポートセンターの委員会に参加し、あんしんすこやかセンター、その他の機関との協力関係の維持に努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	高齢者虐待の研修の内容に身体拘束の内容が含まれており、職員への周知はしてる。日々の対応の中で身体拘束につながる内容がないか担当職員によりケース会議において振り返りを行っている。	毎年2回高齢者虐待防止と合わせて研修を行い、職員は、身体拘束の内容とその弊害を繰り返し学んでいる。禁止対象となる具体的な行為はないが、日々のケアを振り返り、入居者の言葉を遮ったり、気持ちを抑えつけることがなかったかを点検している。	
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることのないよう注意を払い、防止に努めている	法人全体で年2回高齢者虐待の研修を実施しており、グループホームの会議においてミニ勉強会を開催している。	法人内のすべての職員対象に年2回研修を行っている。去年の11月の研修では職員アンケートも行い、結果を事業所で議論した。事業所内ではケース会議で不適切なケアが行われていないか振り返りを行い、虐待行為に当たらないことを確認している。	

自己	者 第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(7)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	高齢者虐待の研修の内容に成年後見制度の内容が含まれており、全職員が研修を受講している。	成年後見制度を中心とする権利擁護に関する研修はすべての職員が毎年受講し理解している。事業所には、成年後見制度を利用している入居者はいないが、関連の資料やパンフレットを集めて内部でも研修を行っている。	
9	(8)	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、解約時の説明は管理者が行っており、説明の中で不明な点がないか確認しながら進めている。	管理者が重要事項説明書で内容を確認しながら丁寧に説明する。特に、金銭関係や入退院時の取り扱いに関する事項には念を入れる。入居者が重度化した場合の対応については、事業所の指針に基づき出来ること出来ないことを明らかにして同意を得ている。	
10	(9)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会や運営推進会議においてご家族様の意見をいただき、その内容は議事録、グループホームの会議において職員へ伝えられている。ご意見の内容にそった対応が出来るよう都度検討をしている。	運営推進会議、年2回の家族会で家族から意見を聞く機会を作っている。事業所訪問の家族からの意見等は、管理者が直接聞くようにしている。「外食レクの機会を増やして欲しい。職員の言葉遣いが気になる。」との要望等を受けて直ちに検討して対応した。	
11	(10)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議において職員の意見を出してもらえるようにしている。年に2回職員の面談を実施しており、各職員の意見を確認するようにしている。	毎週のミーティング、毎月のケア会議で情報を共有化し、意見を出し合う。職員から提案された服薬事故防止対策の実行により6月以降は発生を抑えられている。職員の意見で掃除や洗濯等の作業分担を決めて、入居者一人ひとりに役割を担ってもらっている。	服薬関連の事故、ヒヤリ・ハット報告が、職員の意見によるダブルチェックとそのフォローの実行によりなくなった例を踏まえて、入居者のために何が出来るのか現場の職員の意見を聴き、前向きに話し合っていくことを期待します。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課制度を取り入れており、職員の経験年数だけではなく能力や働く姿勢なども評価基準としている。また、支援内容において、職員からの提案があれば取り入れるようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の研修を開催しており、全員が参加できる環境を整えている。また、認知症ケアなど外部研修への参加も促している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内の他部署との交流を研修や法人行事において図っている。また、グループホーム連絡会や地域ケア会議などへの参加を管理者へすすめている。		

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15			○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居の面談時に希望や不安に思っている内容を聞き取り、その情報をもとに、入居後すぐの時期には寄り添った支援を心がけている。		
16			○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居の面談時にご家族の希望や不安に思っている内容を聞き取り、入居後もご家族の不安がないかを管理者から確認するようにしている。		
17			○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居の相談時に、ご本人、ご家族の状況を確認し、違うサービスが適正と判断した場合は、提案するようにしている。		
18			○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は、介護をする立場で接するのではなく、共に生活を送る立場として寄り添った支援を心がけている。		
19			○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	グループホームの支援を考える場合でも、ご家族の意見を聞き、一緒に考えていくよう取り組んでいる。また、外出や行事などの時には出来る限りの協力を依頼するようにしている。		
20	(11)		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	以前通われていた教会や良く買い物をしてきた店舗への外出を支援している。また、自宅への外出支援をご家族に協力して頂きすすめている。	毎週日曜礼拝に参加する入居者、毎月面会に来る夫と自宅で食事をする入居者、家族と一緒に馴染みの美容院に行く入居者、決まったスーパーで買い物をする入居者の支援を続けている。姪の遺骨を納骨する方を名古屋に付き添い支援した。	
21			○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ユニット内の入居者様が共同で生活を送って頂けるよう、生活の中にそれぞれの役割を提供している。		

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22			○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院や退去になった方も、面会に行かせて頂くようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(12)		○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居面談や支援内容を検討する時には、ご本人ご家族の意向を確認し、支援内容に取り入れるようにしている。また、ご本人の表出が困難な場合は、今までの生活習慣を踏まえ、ご本人の立場になり検討をしている。	入居前に管理者が本人や家族から生活歴、習慣、意向の聞き取りをしている。入居後の生活の中で嫌がる事や食事のし好を把握している。不明な点は家族に聞いたりしている。急に苛立つ入居者には収まるまでそっと寄り添い傾聴する事を心がけている。	
24			○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居の面談時に今までの生活に関する情報を収集するようにしている。また、入居後も同様に情報収集に努めている。		
25			○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	各担当の職員により、定期的なアセスメントを実施。また、日々の支援においてもご本人の状態に合わせた援助を提供できるよう、状態の把握に努めている。		
26	(13)		○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護の担当職員によるモニタリングを実施したのち、介護計画の作成を計画作成担当者により実施。担当者会議においてご家族への説明を行い、意向の確認も同時に行っている。	入居前に聞き取ったフェイスシートを基に介護計画を作成している。担当者を決め3ヶ月に1度モニタリングを行っている。半年に1度、管理者、計画作成担当者、担当者、家族で担当者会議を開き介護計画を見直している。変化があるときはその都度見直している。	
27			○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子をケース記録に記録するとともに、毎週のミーティングや毎月のケース会議において支援内容について話し合う場を作っている。		
28			○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人、ご家族の希望に対して、個別の対応が出来るように管理者も含めて援助を検討している。今までの方法にとらわれない方法がないか検討も行っている。		

自己	者 第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の教会や福祉センター、地域の店舗を活用することで、地域資源との関わりを持った生活支援を提供している。また、地域で活動をしているボランティアにも定期的に協力をしてもらっている。		
30	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ホームへの往診協力をしてもらっている診療所以外にも、もともと主治医であった医院への受診や総合病院への受診支援をしており、必要に応じてご家族の付き添いも協力して頂き、医師からの説明と一緒に聞いていただいている。	1名が以前からの内科を利用しており、受診支援を行っている。他の入居者は内科、精神科、歯科については往診のある協力医を利用している。それ以外の科の協力病院や他の病院の受診支援も行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週2回訪問している、訪問看護師へ入居者様の状態を報告するとともに、体調の変化が見られれば、訪問日でなくても電話での報告相談をしている。		
32	(15)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院後は定期的に面会へ行き、ご本人の状態の把握に努め、医師からの説明時には管理者が同席させていただくことで情報の共有に努めている。	入院中1週間に1度は管理者が面会し、本人の様子を確認する。医師からの家族説明には同席させてもらう。退院の際には病院から看護サマリーや診療情報を得ている。転倒骨折で手術後の早期退院の際に、家族と訪問リハビリやセンサー付ベッドの利用を検討した。	
33	(16)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居契約時に重度化の指針の説明をし、重度化した場合のホームでの対応について理解して頂けるよう努めている。また、状態の悪化が考えられる場合は、担当者会議や面会時に話し合いをしている。	契約時に重度化や終末期のケア、いわゆる看取りまでは行っていない旨及び事業所で、出来る事出来ない事を明確に説明している。重度化や終末期のケアが必要になった時には、同じ法人の特別養護老人ホームやケアハウス、他事業所の施設等を紹介している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	日頃よりマニュアルに沿った対応を心がけている。また、急変時の心臓マッサージやAEDの操作に関しては定期的な勉強会を設けている。		
35	(17)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回避難訓練を実施しており、地域の方にも参加をいただいている。また、訓練の状況を運営推進会議などで報告している。	6月の消防訓練の際には、全員が玄関の外へ避難訓練を行った。次回は土砂災害を想定して敷地内の特別養護老人ホーム等への避難訓練を行う予定である。4月に裏山で火災が発生し、デイサービスの職員や地元消防団の応援もあり特別養護老人ホームの1階に安全に避難した。	

自己	者 第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(18)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様に対しての言葉遣いに関しては、丁寧語を使用し、尊厳を傷つけないよう対応をしている。	入居者を名前だけで呼んだり、離れた所から「立たないで下さい」と叫ぶ事例があった。入居者への敬意を忘れず丁寧に姓に「さん」付けする、叫ばず自分がそばに行くべきと注意した。管理者、リーダーは適宜、職員同士でも相互に注意するようにしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	生活の中において、外出やレクリエーションの内容など入居者様の希望をふまえた内容を検討している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人の生活のスタイルを尊重し、共同生活ではあるが、ご本人のペースで生活を送ることが出来るよう支援を提供している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	普段の服装や髪形など、今までの習慣を尊重できるよう、援助をしている。ご自宅の服を持参して頂くようご家族へも協力を依頼している。		
40	(19)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理や後片付けなど、入居者様もできる内容に関しては、職員と一緒に実施している。また、鍋などの食事レクを利用し、職員も一緒に食事をする機会を作るようにしている。	この冬には月に1度、鍋の日を設けて入居者と職員とが共に食事を楽しんだ。1、2ヶ月に1度おやつのお食事を始め好評である。夏にかき氷やソーメン等も計画し、共に楽しむ機会を増やす。誕生日にはスポンジケーキに入居者が飾り付けをしてお祝いしている。	食事の準備や後片付けを共に行っている入居者もいますが、他の入居者にも、例えば「手伝って」等と声をかけ、会話をしながら一緒にするのはいかがでしょうか。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の食事、水分摂取量を把握している。水分に関しては1日に1500cc摂取して頂けるよう提供をしている。また、昼食、夕食のメニューは管理栄養士に依頼しており、栄養管理に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの機会を持ち、介助の一樣な方に関しては介助を提供している。また、専門的なケアが必要な場合は歯科衛生士に協力して頂き、毎週ケアをしてもらっている。		

自己	者 第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(20)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個別に排泄の有無を確認し、ご本人に合った排泄支援を提供している。できる限り昼夜ともにトイレでの排泄が出来るよう援助をしているが、負担や安全面を考慮し、ポータブルトイレの活用もしている。	現在、オムツを日常使用している入居者はいない。リハビリパンツで過ごしている。夜間、尿意で覚醒する人にはポータブルトイレを設置し、ぐっすり眠る人には厚めのパットを使用している。2日間排便がない時は内服薬を使用している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便の有無を確認し、定期的に排便があるように支援をしている。水分の摂取量、歩行などの運動量が少なくならないよう、援助をし、定期的に排便があるよう支援をしている。		
45	(21)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	3日に1回は入浴して頂けるよう援助しており、ご本人の希望や皮膚の状態によっては、頻度を多くしている。また、入浴だけではなく足浴も取り入れ、清潔の保持に努めている。	3日に1回の割合で入浴を楽しんでいる。機械浴はなくバスボードを使用しての入浴も難しい入居者にはシャワー浴を行っている。足に皮膚疾患がある入居者には入浴しない日も足浴を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時間はご本人の希望に合わせた時間で提供。また、日中であっても、ご本人の疲労や体力の状況で休息を促している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬の管理は介護職員が行っている、服薬の内容、効果などは薬情で確認をしている。また、副作用が考えられる場合は、どのような症状が出ているかを往診時に医師へ報告をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の生活の中で、ご本人の趣味や希望を取り入れた援助を提供しており、買い物や散歩なども気分転換として提供をしている。		
49	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	定期的な外出や希望時の散歩などを提供しており、職員が対応困難な場合は、ご家族の協力を得て外出支援をしてもらっている。	教会礼拝の支援、管理者と共に行うごみ拾い、近隣公園への散歩、敷地内の施設の屋上からの眺め等を楽しんだりしている。月に1回を目標に外食の支援を行っている。また全員を3回に分けて淡路の日帰り旅行を行い喜ばれた。	1つのユニットでは月に1度の外食支援を行えるようになってきています。もう1つのユニットでは車椅子の方もおられ月に1度は難しい状態ですが、職員のやり繰りで月に1度の外食支援を行う計画を実行される事を期待します。

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50			○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭の管理が出来る方に関しては、ご自分で所持してもらい、買い物などを行ってもらっている。残金がいくらあるかは定期的に職員が確認を行っている。管理できない方はホームが立替をすることで、買い物ができるよう配慮している。		
51			○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望のある場合は、ホームの電話を使用してもらったり、手紙を準備し書いてもらっている。		
52	(23)		○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	各フロアー共に、穏やかに過ごしていただけるような環境づくりを心がけている。また、飾りなどで季節感を感じて頂けるように配慮をしている。	リビングが広く、整理・整頓が行き届いている。緑の林が窓いっぱいになり、静かに音楽が流れ、居心地の良い空間となっている。空気清浄機も設置している。毎日掃除機やモップで床を掃除しており、トイレや浴室も清潔を保っている。	
53			○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者様同士がくつろいで過ごせるように、環境を整えている。また、入居者様一人一人が、自分の居場所を持っているように配慮をしている。		
54	(24)		○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内の環境については、ご本人ご家族へ、馴染みの家具などを持参して頂いても問題がないことを説明している。	備え付けのベッド、ダンス、洗面台、ミニ機の他は、それぞれの入居者がなじみの物を持ち込み居心地よい居室となっている。1週間に1度のリネン交換時に職員と一緒に掃除をして清潔を保っている。エアコンの温度や風量はそれぞれの好みを考慮して設定している。	
55			○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全に過ごしていただくことを第一に、出来る限り自立をした生活を送って頂けるよう、各所への手すりの設置やバリアフリーの環境を整えている。		